

定期総会後の研修会 作家：鈴村 ふみ氏 講演会報告

江府町立図書館 館長 宇田川 恵理

作家であり、カニジルブックストア元店長の鈴村ふみ氏の講演は、本への愛にあふれた内容でした。子どもの頃、自転車で書店に駆け付けていたお話や、病院内の書店店長としての体験談などは、お人柄がにじみ出ていて、とても印象的でした。

また、本を手取るハードルを下げることや、次の世代の読み手を育てるといった点について、図書館に期待していただいていることも、非常にありがたかったです。地域から本屋が無くなっていく時代に、図書館が果たす役割とは何なのかということを考えさせられました。いわた書店さんの1万円選書を依頼したエピソードの中で、本を選んでもらうという以上の何かがあると語っておられましたが、紙であれ、電子であれ、本というものが持っている力を、まず図書館員が信じるのが大事だなと、改めて感じた次第です。



講演中の鈴村 ふみ 氏

第29回 鳥取県図書館大会 報告

令和6年7月31日(水) エースパック未来中心と倉吉交流プラザで第29回鳥取県図書館大会が開催されました。計330名(会場:226名、オンライン:104名)が参加し、つなぐつながる図書館について考えました。

大会テーマ:「つなぐつながる図書館の未来～ともに考える多様な学び～」

◆ 基調講演 演題:「連携の多様性が生み出す図書館の未来 ～信州の取組を事例に～」

講師:森 いづみ 氏(県立長野図書館 館長)

「連携」をキーワードに、県立長野図書館長として取り組んでこられた数々の挑戦について、惜しみなく詳細にご紹介いただきました。



講演中の森県立長野図書館長

電子図書館「デジとしよ信州」では、県立図書館がプラットフォームを維持し、コンテンツを77市町村で分担購入することで、市町村図書館の予算確保や運用の懸念を払拭し、全県下へのサービス展開、自治体を越えた図書館間連携を実現されています。宝くじ助成金を活用することで財源を確保するなど、持続可能なサービスに向けた様々な取組が紹介されました。

「信州 知の連携フォーラム」は、MLA連携のひとつとして、歴史館、美術館、大学図書館、県立図書館の4館が協力してスタートし、輪番でセミナーやワークショップを開催するほか、デジタルアーカイブ「信州デジタル commons」を運営し、公民館と連携して、区誌など地域資料のデジタル化に取り組まれています。MLAにはそれぞれ特性があり、扱うモノや文化(価値観)の違いによる温度差が感じられるなど、連携の難しさをうかがい

知ることができました。

横断検索「信州ブックサーチ」(現在地付近の書店の在庫情報が表示される仕組み)が、講演当日の朝に実現したというホットな話題も提供され、多様な連携の形を示されました。「図書館の未来を考えることは、地域の未来を考えること」であるとして、リアルとバーチャルのベストミックスで両方の良さを活かしながら個人と社会のウェルビーイングの実現を目指したいと締めくくられました。

講演後には質疑応答の時間が設けられ、フロアからの発言もあり、多くの示唆に富む意見交換が行われました。

◆事例発表「つながりのきっかけを見つけよう!類縁機関活動紹介」

まず、図書館の類縁機関として3つの機関の活動が紹介されました。

1. 演題:鳥取県立美術館はどんな場所?



講師:三浦 努 氏(鳥取県地域社会振興部美術館 学芸担当参事)

2. 演題:それいいね!自分らしくあなたらしく~私たちと一緒に連携しませんか~

講師:北園 香織 氏(鳥取県男女共同参画センター 情報アドバイザー)

3. 演題:デジタルデトックス~心と体の健康は体験活動と読書から~

講師:坂西 理之 氏(鳥取県立船上山少年自然の家 指導係長兼社会教育主事)



事例発表の様子

令和7年に開館予定の鳥取県立美術館は、地域ブランディングの核となり、図書館と協力して地域のイメージ発信を担う役割について紹介されました。鳥取県男女共同参画センター「よりん彩」では、平成13年からセミナーや資料提供など、男女共同参画推進の拠点として活動していること、鳥取県立船上山少年自然の家では、自然体験を通じてデジタルデトックスや仲間づくりの機会を提供していることが紹介されました。後半のディスカッションでは、それぞれの機関と読書の関連性や、各機関の特色を活かした連携のアイデアが話し合われました。

◆分科会1『ICT活用の先に見えてくる新しい読書と学びのカたち』

■司会:足羽智史 氏(鳥取県教育委員会事務局社会教育課生涯学習推進担当 社会教育主事)

■コーディネーター兼登壇者

三田 祐子 氏(鳥取県教育委員会事務局社会教育課生涯学習推進担当 係長)

■登壇者:横山 順一 氏(鳥取県教育センター 所長)

麻田 真 氏(鳥取県立倉吉東高等学校 司書主任)

第1部では、パネリスト3名に、それぞれの実践について発表をしていただきました。横山順一氏は、ICT活用、探究的な学びをめぐる現在の教育現場の現状や取組、情報の偏りを防ぐためには、人が介在して多様な学びを支援していくことの重要性等について報告されました。麻田真氏は、生徒の主体的な学びを支援するために、「図書館に関する方針の策定」「様々なオンラインデータベースの提供」「蔵書検索の機能強化」「学ぶ場としての図書館づくり」など様々な取組について紹介されました。三田祐子氏は、令和5年度に実施した「子どもの読書活動に関するアンケート調査」結果から見えてくる、読書をめぐる子どもたちの状況や意識について報告されました。第2部では、「生成 AI について」「探究学習と図

書館との関わり」などの活発な質疑応答が行われました。

第1分科会の発表者の皆さん

◆分科会2「読書バリアフリーについて考える~必要とする人に適切な方法で~」

登壇者：谷口 慎二 氏（鳥取県見えにくい人を考える会副会長）

古田 晶子 氏（鳥取県立鳥取聾学校 司書）

前田 晶子 氏（倉吉市立図書館 主幹）

コーディネーター：藤井 美華子 氏（琴浦町図書館 係長）

読書バリアフリーを進めていく中で、図書館では何が必要かを考えるべく、利用者、学校、公共図書館の立場でお話いただきました。

鳥取県見えにくい人を考える会の谷口氏は、読書バリアフリーについての説明と、アクセシブルな図書の利用を継続すると、認知症予防・健康寿命の延伸につながることを話されました。

鳥取県立鳥取聾学校図書館司書古田氏は、読書バリアフリーを意識した取組や手話による絵本の読み聞かせについて紹介されました。倉吉市立図書館前田氏は、実施している障がい者サービスについて報告されました。令和6年3月策定の「倉吉市障がい者プラン」には読書バリアフリー計画が含まれること、策定にあたって担当課と連携し、障がいを持つ方や関わりのある方と一緒に協議したことを紹介されました。

意見交換では、課題として情報発信の不足があげられました。障がいの有無にかかわらず、全ての人に読書バリアフリーについて知ってもらうためには広報が重要で、誰でも読書できる社会の実現を目指して、各機関が役割分担して協働していこう、と会は締めくくられました。

◆ 分科会3「源氏物語から考える古典の楽しみ方」

講師：中永 廣樹 氏（元鳥取県教育委員会教育長）

先ごろ『源氏物語を読んでみよう～紫式部が伝えたかった「大切なこと」～』を執筆された中永廣樹氏を講師にお招きし、まずは、源氏物語の面白さを伝えるために本を書きたいと思ひ続け、地元の出版文化に近づきたい、地方出版を少しでも支えたい、という思いから自費出版にこだわったエピソードをお聞きました。

続いて、源氏物語は心理描写が細かくリアリズムがあり、生き方や愛することなど人の心が大事に描かれているから、千年の時を経て今を生きる我々に共感や示唆を与えてくれること、優れた古典文学には人間にとって大切な今日的なテーマがあるといったことを語られました。さらには紫式部の人物像、個性豊かな多くの登場人物に見る人間の生き方や、源氏物語研究で著名な池田亀鑑（日南町出身）のことなど、機知に富んだお話から、参加者は古典の魅力や奥深さを学びました。

最後に、「図書館は想像力を生かして生きていくために必要な場所」だと締めくくられました。



第2分科会の発表風景



第3分科会の講演の様子

◆ 分科会4「あらためて、まちの書店を考えよう」

解説：「まちの書店は、いま」柴野 京子 氏（上智大学教授・認定 NPO 法人本の学校理事長）

講演：「本屋で待つ」佐藤 友則 氏（（株）総商さとう 代表取締役）

座談会：「まちの書店を考えよう」

座長 梶原 治樹 氏（扶桑社販売局局長・認定 NPO 法人本の学校副理事長）

広島県で美容室やコインランドリーを併設する複合型本屋を営み、成功例として注目を浴びている佐藤氏の講演を中心に、柴野氏の解説と、梶原氏を含めた3人による座談会の3部構成で行われました。

柴野氏は、図書館や書店がない町村が増えているが実は書店ブームが来ていること。小さくてお洒落な個人経営の本屋は日本全国で増えていて客にとって本屋の意味が変化してきているということを話されました。

佐藤氏の講演は、本屋がなくなったまちにオープンした新店舗について、本屋がつぶれていく中「無書店地域に本屋ができることがまちの再生につながるということを証明するため」にオープンしたという経緯や、新店の棚に本を詰める作業をまちの人と行った体験談、他業種の無人店舗を作りその収益を充てることで本屋を維持していくという計画をお話しされました。特に、人生が変わる瞬間というのは、人に会っている時か本を読んでいる時のどちらかで、本屋も図書館も人生を変える価値のある場所であるという話が印象的でした。

座談会では県内で個人で本屋を営む方が発言され、本屋がまちに根付き周辺の店ができていくことで生態系が生まれまちが再生していくことについて語られました。



第4分科会の講演の様子

◆分科会5「図書館応援団大交流会」

◆活動紹介：ちえの森応援隊、図書館フレンズけたか、さかいみなと図書館応援団、江府町図書館友の会、日野町図書館友の会

第5分科会では、「図書館応援団大交流会」と題し、地域住民が主体となり図書館を支え、応援する5団体が活動紹介と意見交換が行われました。

まず、「ちえの森応援団」「図書館フレンズけたか」「さかいみなと図書館応援団」「江府町図書館友の会」「日野町図書館友の会」の5団体に設立の流れや活動内容、今後の課題などをお話いただきました。各団体とも「図書館により多くの人に来てもらいたい、図書館でいろんなことができることを知ってもらいたい」「少しでも何かできないか」「自分たちの望む図書館にしていくなにはどうしたらよいか」という思いのもと、様々な取り組み、イベントを実施していらっしゃいました。



最後にみんなで記念写真

また、意見交換の場では、各活動報告や配布された広報誌を参考にしつつ、気になったことや、自分たちの課題に対して、他団体はどうしているかなど、自治体の枠を越えて応援団同士がつながるきっかけとなる意見交換が行われました。

県内図書館視察の報告

米子北高等学校図書館「BAUM（バウム）」

鳥取県立図書館 資料課長 岩崎 武史

10月に誕生したばかりの米子北高等学校「BAUM（バウム）」を訪問しました。「学校を中心に森をつくる！」をコンセプトに誕生した学校図書館です。

落ち着いた空間で読書や自習が可能な「図書カフェ」、生徒が創作した作品を展示することができる「ホワイエ」、自由に会話や交流ができる「クリエイティブ談話室」、「思考力を鍛える」をテーマに揃えられた漫画を読むことができる「漫画思考図書館」の4つのエリアで構成されています。

どのエリアも洗練された色遣いや家具・照明など、空間デザインにも工夫が凝らされ、快適に時間を過ごすことができそうです。生徒のみなさんが楽しそうに図書館に集う様子が想像できました。



図書カフェの様子

鳥取県ライトハウス点字図書館

日吉津村図書館 司書 土井 綾子

初めて鳥取県ライトハウス点字図書館を訪問した参加者もある中、3つのグループに分かれて施設内を見学しました。鳥取県ライトハウス点字図書館は ①情報提供、②リハビリテーション、③生活支援、④普及・啓発の4つの柱を中心に様々なサービスを提供しておられます。見えない・見えにくいといった視覚障がいのある方をはじめ、図書を読むことが困難な方のために、点字、録音、デージー図書を製作したり、サピエ図書館を利用して、全国の図書館が製作した図書の貸出を行ったりするなど、あらゆるツールを使ってすべての人に本を届けようという取組について、図書館関係者がもっと理解し、伝えていくことが大切だと感じました。



読書バリアフリーのための機器を体験する様子

境港市民図書館

日南町図書館 館長 浅田 幸栄



児童コーナーの様子

令和4年7月にリニューアルオープンした境港市民図書館。明るく開放的な雰囲気、足を踏み入れた瞬間、心躍る空間です。

まず、目を引くのは、160席という座席数の多さです。しかも、その時々の気分や用途によって選べるように、椅子、ソファ、スツール、窓際、学習用など様々な場所が用意されています。DVDの視聴も、ブースを作らず、PCとイヤホンで好きな場所で観るというスタイルなのも、この環境だから可能なのだと納得しました。

また、堅苦しくなりがちな郷土資料コーナーが低い書架と工夫が凝らされた展示によって親しみやすいコーナーとなっており、参考にしたいと思いました。

米子市児童文化センター

境港市民図書館 館長 嘉賀 収司

米子市児童文化センターは、ボードゲームなどが置いてあるホワイエをはじめ、図書室、プラネタリウムなどを含め多くの部屋があり、nichi施設を活かした活動が盛んです。

図書室には、育児の本も含め子ども向けの本が揃っています。館内の活動と関連した星の本なども充実しています。子ども連れの方だけでなく、大人もゆったりと利用することのできる落ち着いた雰囲気です。

また、この施設の目玉であるプラネタリウムと図書館がコラボし、星の本や怖いお話を楽しむこともあるようです。その他、ミクロの世界を体験できる電子顕微鏡が置いてあり、「大人も子どももわくわく楽しみながら学ぶことができる」施設だと感じました。



落ち着いた雰囲気の図書室

個人会員の皆様の意見を協会の運営に反映するために

個人会員から理事を募集します！

鳥取県図書館協会



■募集人数:2名

■募集資格:次の要件をすべて満たす方

- (1)鳥取県図書館協会の個人会員である方（応募と同時入会・会員継続を可とする）
- (2)年2回程度、鳥取県立図書館で平日昼間に開催する理事会に出席できる方
- (3)図書館のあり方や読書活動推進に対して関心が高く、会議において公平・公正な立場で建設的な意見を述べることができる方

■鳥取県図書館協会理事について

- ・職務:理事会へ参加し、総会に提案する議案、総会から付託された事項及びその他必要な事項について審議すること。
- ・人数:若干名
- ・任期:2年（令和7年7月1日から令和9年6月30日まで）
- ・報酬:なし、交通費:県の規定に準じ実費を支給します。
- ・鳥取県図書館協会ホームページで氏名を公表します。

◆ 応募方法

裏面の応募用紙に、氏名、連絡先、所属及び「これまでの図書館や読書活動とのかかわり」(600字程度)を記入し、郵送、ファクシミリ、電子メール又は持参のいずれかでご応募ください。締切:令和7年6月25日(水)必着

※6月25日(水)午後1時30分から鳥取県立図書館で開催する鳥取県図書館協会定期総会においても応募を受け付けます。

◆ 応募・問合せ先

鳥取県図書館協会事務局
(鳥取県立図書館内)

〒680-0017 鳥取市尚徳町 101 担当:高橋
電話:0857-26-8155 FAX:0857-22-2996
電子メール:toshokan@pref.tottori.lg.jp

鳥取県図書館協会 個人会員理事 応募用紙

(よみがな) 氏名	()
電話番号	
所属	※過去に学校図書館での勤務経験がある場合には、その旨も併せてお知らせください。

★「これまでの図書館や読書活動とのかかわり」について 600 字程度でご記入ください。

[illegible]

- ・提出された応募用紙の記載内容をもとに書面審査により理事を決定します。決定後は速やかに応募者全員に結果を通知します。
- ・応募用紙(個人情報)は理事の決定を目的として使用し、それ以外の目的には使用しません。また、応募用紙の返却は行いません。

【審査基準…（ ）内は配点】 20点満点として採点し、6割以上を合格点とする。

- ① 参加への意欲・熱意がある（５点）
- ② 図書館のあり方や読書活動推進に対して関心が高い（５点）
- ③ 公平・公正な立場で意見を述べている（５点）
- ④ 図書館や読書活動推進に関する知識・知見が豊富である（５点）

※学校図書館での勤務経験がある場合には別途3点を加点する。

<応募先>鳥取県図書館協会事務局(鳥取県立図書館内) 担当:高橋

〒680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町 101

電子メール:toshokan@pref.tottori.lg.jp

ファクシミリ:0857-22-2996

令和7年度 鳥取県図書館協会 研修会

元鳥取県立
図書館長

小林 隆志 氏 講演会

図書館勤務26年目になって考えたこと

会員をはじめとする図書館・読書に関わる関係者の研鑽と、県内図書館と読書活動の推進を目的として、定期総会終了後に研修会を開催します。本年度は、長年にわたり課題解決型サービスの提供や県内図書館ネットワークの構築、図書館や読書振興のために尽力されてきた鳥取県立図書館の小林隆志氏を講師に迎え、今抱いている図書館への思いについてお話いただきます。

令和7年 **6月25日** (水) 15時～16時

開場 14時50分

※13時30分から14時50分までの間は、鳥取県図書館協会の総会を開催していますので、研修会のみ参加の方は、会場外でお待ちください。



会場

鳥取県立図書館 大研修室
(鳥取市尚徳町 101 電話：0857-26-8155) 【講師プロフィール】

対象

どなたでもご参加いただけます。

定員

80名

参加費

無料

申込

チラシ裏面の申込書に御記入の上、
6月20日(金)までに
お申し込みください。

小林 隆志

鳥取県立図書館 情報相談課 相談担当
課長補佐
元鳥取県立図書館長 (R3～5年度)
文部科学省図書館・学校図書館の運営
の充実に関する有識者会議委員、認定
NPO法人本の学校理事、ビジネス支
援図書館推進協議会副理事長。

◆申込先◆

鳥取県図書館協会 企画委員会 担当：ちえの森ちづ図書館 竹内・葉狩
電話：0858-75-4123 ファクシミリ：0858-71-0036
メールアドレス：chizulibrary@town.chizu.lg.jp

◆お問い合わせ◆鳥取県図書館協会事務局 (鳥取県立図書館内)

担当：佐伯、高橋
TEL 0857-26-8155

令和7年度 鳥取県図書館協会 定期総会・研修会 参加申込書

【申込先】鳥取県図書館協会企画委員会（受付担当：ちえの森ちづ図書館）

電話：0858-75-4123 FAX：0858-71-0036

メールアドレス：chizulibrary@town.chizu.lg.jp

申込締切 令和7年6月20日（金）

○研修会は、会員に関わらずどなたでも参加できます。応募者多数の場合は先着順となります。定員（80名）に達した場合はお断りの連絡をさせていただきます。

○研修当日の入会・会員継続手続きも可能です。受付にてお申し出ください。

所属・役職 例：〇〇町立図書館 司書	氏 名	総会参加 （会員のみ 記入）	研修会 参加
（記入例） 鳥取県立図書館 司書 （電話連絡先 0857-26-8155 ）	図書館太郎	○	○
（電話連絡先 ）			
（電話連絡先 ）			
（電話連絡先 ）			
（電話連絡先 ）			
（電話連絡先 ）			

※提出いただいた個人情報は、総会・研修会運営の目的にのみ利用し、個人情報保護関連法令に基づく個人情報の対象として保護します。

第30回 鳥取県図書館大会 開催要項

1 大会テーマ 「いま改めて考える『読書』の未来と可能性」

急速に変化するデジタル社会において、これから「読書」にはどのような役割が期待されるのか。生活様式の変化や「GIGAスクール構想」の進展、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」の成立等の読書を取り巻く環境の変化も踏まえ、これからの未来へつながる新しい「読書論」について考える。

2 主 催 鳥取県図書館協会

3 共 催 鳥取県書店商業組合、NPO法人本の学校、
鳥取県学校図書館協議会、鳥取県公共図書館協議会、鳥取県立図書館

4 後 援 公益社団法人日本図書館協会

5 期 日 令和7年8月18日（月）

6 会 場 米子コンベンションセンター（米子市末広町294、電話：0859-35-8111）
小ホール、第1会議室・2会議室・3会議室・4会議室

7 内 容

(1) 開会行事

挨拶：鳥取県図書館協会 会長 齋藤 明彦
鳥取県教育委員会 教育長 足羽 英樹 氏
米子市教育委員会 教育長 浦林 実 氏

(2) 基調講演

演題：「若者の読書離れは本当なのか？ データから見る実態と、実際によく読んでいる本」

講師：飯田 一史 氏（出版ジャーナリスト・ライター）

<講師プロフィール>

1982年青森県むつ市生まれ。中央大学法学部法律学科卒。グロービス経営大学院経営研究科経営専攻修了（MBA）。出版社にてカルチャー誌や小説の編集に携わったのち、独立。ウェブカルチャー、出版産業、子どもの本、マンガ等について取材、調査、執筆している。JPIC読書アドバイザー養成講座講師。電子出版制作・流通協議会「電流協アワード」選考委員。インプレス総研『電子書籍ビジネス調査報告書』共著者。

著書に『町の本屋はいかにしてつぶれてきたか』『若者の読書離れ』というウソ』『マンガ雑誌は死んだ。で、どうなるの？』『ウェブ小説30年史』ほか。

(3) 特別報告・事例発表「読書と人とをつなぎ・つながる取組最前線

～子どもの読書環境を支える現場はいま～

令和7年3月に策定された「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第5次計画）」についての報告に続き、子どもたちと読書の架け橋となるべく活動する、こども園、義務教育学校、高等学校の皆様に、子どもの成長の流れに沿って、日々の取組について事例発表いただく。

報告者：鳥取県教育委員会事務局 社会教育課長 福本 哲也 氏

事例発表者：北栄町立北条こども園 園長 竹本 幸子 氏
 日野町立日野学園 校長 砂流 誠吾 氏
 学校法人翔英学園 米子北高等学校 学校司書 高山 紫織 氏

(4) 分科会

	テーマ	内容	講師・発表者・対談者
1	発進！移動図書館車	少子高齢化や過疎化により図書館への来館が難しくなる方が増えるなかで、積極的に本を届ける移動図書館車の活動から、これからの図書館サービスのあり方について学ぶ。	<発表者> ・鳥取市立中央図書館 館長 中島 泉 氏 ・町立みささ図書館 副館長 小椋 智子 氏 ・米子市立図書館 課長補佐 熊沢 菜穂子 氏 ・大山町立図書館 館長補佐 永井 美里 氏
2	電子書籍の未来 ～読書バリアフリー、 教育現場編～	電子書籍の登場により、読書バリアフリーの取組みや教育現場において、読書の可能性が大きく広がっている。これから電子書籍はどのような方向に進んでいくのか、電子書籍事業者に近況報告をお願いする。	<発表者> ・株式会社 紀伊國屋書店 デジタル・流通事業本部 デジタル情報営業部長 西田 和之 氏 ・株式会社 図書館流通センター 電子図書館推進部長 金子 哲弥 氏 ・株式会社 メディアドゥ IP・ソリューション事業本部 出版ソリューション推進部 電子図書館推進課 シニアマネジャー 瀬尾 昌也 氏
3	対談：大人も本を読んでいるといわれるけれど…。	大人にとって読書とは？ 鳥取市内で長年にわたり本を手渡し続けてきた書店主と、本と人をつなぎ新しい本との出会いを届ける「読書室」主宰のお二人に、大人になってからの読書の意味についてお話しいただく。	<対談者> ・定有堂書店 店主 奈良 敏行 氏 ・読書室 主宰 三砂 慶明 氏
4	NPO法人本の学校・特別分科会「ニジノ絵本屋の物語～本屋さんで、絵本の出版社で、絵本パフォーマー～」	絵本を売るだけでなく、絵本を作る、絵本を背負って様々な場所でイベントを開催する。既存概念を楽しさで吹き飛ばす絵本屋店主にその体験談を語ってもらう。	<講師> ニジノ絵本屋 代表 いしい あや 氏
5	図書館応援団大交流会	県内で活動する図書館応援団が集い、その取組の紹介や情報交換を行う。※応援団活動に関心のある方もご参加いただけます。	参加を希望する応援団の皆様

8 日 程

時間	内容
9:30～10:00	受付

10:00～10:15	開会行事
10:15～11:45	基調講演
11:45～13:15	休憩
13:15～14:45	特別報告・事例発表
14:45～15:00	休憩
15:00～16:30	分科会

※開催方法の変更や中止などのお知らせがある場合には、当日午前7時を目途に鳥取県立図書館ホームページに掲載します。

- 9 参加対象 県民の皆様、県内公共図書館関係者、県内学校図書館関係者、幼稚園・保育所関係者、家庭文庫・読み聞かせボランティア等

- 10 参加費 ○鳥取県図書館協会の会員：無料

- ・同時入会可：年会費一口2,000円以上：入会した場合の大会参加費は無料
- ・施設・団体会員は団体・施設ごとに1名が無料。

- 会員外：会場・オンライン参加問わず参加費500円。

- ・オンライン参加者は資料を無料でダウンロードできます。ダウンロードが困難な方には郵送いたしますのでお知らせください。（資料郵送代：会員無料、会員外215円）

※支払い：会場参加の方は当日受付で、オンライン参加の方は8月11日（月）まで（資料の郵送を希望される方は8月4日（月）まで）に以下の口座にお振込みください。振込名義は参加申込者名としてください。また、振込手数料はご負担ください。

振込先：〈郵便振替〉 口座番号：01360-5-93397 口座名：鳥取県図書館協会

- 11 開催方式 会場参加及びオンライン参加

※オンライン配信はZOOMで実施します（後日の配信はなし）。

全体会は全編配信し、分科会は第1～4分科会の配信を行います。

第5分科会の配信はありません。

- 12 定 員 会場参加 300名 オンライン参加 300台 ※個人視聴のみ

- 13 申込締切 8月11日（月）※オンライン参加で資料の郵送を希望される方の申込締切は8月4日（月）

- 14 問合せ先・申込先・申込方法 等

【問合せ先】鳥取県図書館協会事務局（鳥取県立図書館内）

電話：0857-26-8155 ファクシミリ：0857-22-2996

電子メール：toshokan@pref.tottori.lg.jp

【申込先】第30回鳥取県図書館大会実行委員会事務局（日南町図書館内）

電話：0859-77-1112 ファクシミリ：0859-77-1114

電子メール：s1051@town.nichinan.lg.jp

【申込方法】QRコードからGoogleフォームでお申込みください。

※Googleフォームが利用できない方は、チラシ裏面の申込用紙により、日南町図書館へメール、またはファクシミリでお申込みください。

※チラシ（申込用紙）は鳥取県立図書館のホームページからダウンロードできます。

※フォーム、メール、ファクシミリでの申込みが困難な方は、電話でご連絡ください。

【個人情報の取扱いについて】

提出いただいた個人情報は、本大会運営の目的にのみ使用し、その他の目的には使用しません。

※申込用GoogleフォームQRコード →

QRコードURL：<https://forms.gle/SnG6UQwfgp9V9S1M8>



15 手話通訳・要約筆記等について

- ・全体会：手話通訳者と要約筆記者を配置します。
- ・分科会：申込時のご希望に応じ、予算の範囲内で、手話通訳者、要約筆記者を配置します。
- ・配布資料の拡大印刷やデータの提供等が必要な方は鳥取県図書館協会事務局までお知らせください。

16 情報交換会について

日時：令和7年8月18日（月）午後6時から

会場：『弥栄（いやさか）』 米子市明治町196（駅前通り）電話050-5488-3799

定員：50人

参加費：6,000円

令和7年度 県外研修会等参加費助成事業 対象事業(案)

資料 7

	対象	研修会名	開催方法	開催地	開催日	参加費等(参考金額)			必要費用	一人当たりの助成参考金額(上限5万円)
						参加費	往復交通費(倉吉市外費を想定)	宿泊費		
1	公共・学校・大学等・ボランティア等	第111回全国図書館大会	会場	松山市	10/30(木)～31(金)	6,000	26,480	10,000	42,480	33,000
2	公共	2025年度全国公共図書館研究集会 サービス部門及び総合・経営部門	会場	静岡市	12/1(月)～2(火)	0	36,180	9,000	45,180	36,000
3	公共・学校・大学等・ボランティア等	図書館総合展2025	会場	横浜市	10/22(水)～10/24(金)	0	39,660	32,000	71,660	50,000
4	公共	令和7年度中国・四国地区図書館地区別研修	会場	岡山市	4日間(日程未定)	0	12,380	30,000	42,380	33,000
5	公共等	準デジタル・アーキビスト資格取得講座	オンライン	-	年間5回程度	20,000	0	0	20,000	16,000

助成金額の考え方

- ・助成事業は100,000円の枠予算
- ・その他「鳥取県図書館協会県外研修会等参加費助成要綱」とおり

第34回中国地区学校図書館研究大会鳥取大会参加費助成事業(案)

	対象	研修会名	開催方法	開催地	開催日	参加費等(参考金額)			必要費用	一人当たりの助成参考金額(上限なし)
						参加費	往復交通費(倉吉市～)	宿泊費		
1	学校	第34回中国地区学校図書館研究大会	会場	鳥取市	10/16(木)～10/17(金)	4,000	3,120	0	7,120	5,000

助成金額の考え方

- ・助成事業は20,000円の枠予算
- ・助成額は交通費・宿泊費・参加費及び資料費の総額の80パーセント以内の額とし、鳥取県の規程の例により算定した額とする
 - 1,000円未満の端数があるときは切り捨てる
- ・その他は「鳥取県図書館協会県外研修会等参加費助成要綱」に準ずる

